

聖書箇所：Ⅱ列王6：8～20

ルカ15：11～32

タイトル：「霊の目が開かれると」

テーマ：肉体の目で見えるもの、霊の目で見えるもの、そして私たちが真に見るべきものは何か。真に見るべきものが見えるとき、何が変わるか。

#### 1. はじめに

#### 2. Ⅱ列王6：8～23

##### ①文脈

\*北王国イスラエルの預言者エリシャ

\*北王国がアラムという国からの攻撃を受けている中で

##### ②エリシャの召使が見たもの

\*エリシャと自分を取り巻くアラムの軍勢

##### ③エリシャが見たもの

\*アラムの軍勢だけではなく、神の軍勢の守りの手を見ていた

##### ④霊の目が開かれた召使が見たもの

\*神の軍勢

##### ⑤エリシャの敵が見たもの

\*敵である北王国の首都サマリアの真ん中にある自分たち

##### ⑥はじめからあったもの

\*神の軍勢の守り

#### 3. ルカ15：11～32

##### ①文脈

\*父親から財産をせしめ、放蕩の末落ちぶれて、豚以下に落ちぶれた放蕩息子の姿

##### ②放蕩息子が見たもの

\*惨めな、何も持たない自分の姿

##### ③兄息子が見たもの

\*品行方正で、立派だと思っている自分の姿

##### ④はじめからあったもの

\*父の愛

#### 4. 結論、適用

①私たちは何を見ているか

\*直面している問題や現実の困難？

\*自分の惨めさ？立派さ？

②私たちが陥りやすいところ

\*苦難の理由を問いたくなる私たち

③変わらぬものを見ていく目

\*私たちの側の状況や心境に関わりなく、変わらず注がれている主のまなざしと恵み

\*それを理解させて下さる聖霊の働き